

入野小学校 校長室だより

2015.6.12(金) No.10 文責：芝

とても、うれしい電話が…

10日(水)の午後、あかつき館の館長さんからお電話をいただきました。

「すごく成長したね。」

この日、3年生が「あかつき館見学」に行かせていただいたのですが、その時の3年生の様子を見て、館長さんがわざわざお電話を下さったのでした。今回の見学だけでなく、校区内にある施設ですし、館内には図書館もありますから、学校が休みの日には個人的に行って館長さんと顔見知りという子どもたちもいるのでしょうか。何年も子どもたちを見守り、成長を見取って下さっている館長さんに、心から感謝したことです。

嬉しくて、さっそく3年生教室へ行き、「館長さんから、こんな電話をいただいたよ。」と伝えて、みんなで喜び合ったことでした。

みんな、最高の表情をしていました。全身からエネルギーがわき出る感じがしました。

子どもは褒めて育てたいですね。でも、叱らなければいけない場面もあるのが悩みです。



わりばしはもったいない？

4～6年生で、新しいことを始めました。新聞の記事を読んで「①どんな内容か ②書かれている内容について、どう思うか」を指定された文字数内で書く取り組みです。今回は、

「わりばしは、もったいない？」

という見出しの小学生対象の記事を使い、火曜日の放課後の「くろしおタイム」で行いました。

この取り組みを始めたのは、自分の考えを文にして答えることが苦手な子どもたちが多いと思われること、それから、今年の高校入試から、考えを文にして答える問題が多くなったこと、更に国語では「あなたは、どう思うか」を答える問題が加わり、これからもその傾向が続きそうだという理由からです。



子どもたちの感想は、当然ですが、「すぐ終わった・楽しかった」と言う子どもと「時間がかかった・苦勞した」と言う子どもがいました。「苦勞した」子どもには、「大丈夫、すぐにコツをつかんで苦勞せんでも書けるようになるよ。」と、励ましたことです。

この取り組み、私たち教職員の方にも戸惑いがありました。

「マルを付ける基準をどうする？」

どのくらい書けていたらOKにするか、ということです。一人ひとり書いてくる内容が違ってしまうから、その判断は難しいことが予想されます。そこで、大方中学校の国語の先生に模範解答を書いてもらって、色々と相談して、とりあえず第1回目に突入したことでした。結果としては、まずまず順調に終了し、安心したことでした。

1回目を終えて、「これは力がつきそうだ」という手応えを感じましたので、2回目3回目…と続けて行こうと考えています。